



新しい オフィスのカタチ

イノベーション創出を促す

開放的な空間でコミュニケーション向上

九電工

総合設備業の(株)九電工(石橋和幸社長)は福岡・天神のワンフコオカビルディング13、14階に本社を移転、5月19日から営業を開始した。

「天神ビッグバン」を代表する同ビル。天神一丁目という利便性に優れた立地で、多様な企業・人々が交わり、新たな価値創造が期待されている。最先端の高性能制震システムやハイスベックな設備機器が導入されており、環境負荷の軽減にも配慮された、オフィスワーカーが安心して働ける環境だ。

新本社コンセプトは「集う。繋がる。未来を創る」。13階は全体が同社のオフィスで、従業員が自立性・積極性を育み、新たな事業領域にチャレンジできる場として、従来の固定席での働き方から、業務内容や目的に応じて各従業員が席を選択できるフリーアドレス制を導入している。

部門間の垣根を撤廃した間仕切りを設けない開放的なレイアウトを採用し、社員間の交流を図れるリフレキシユエリア等も設置、従業員同士のコミュニケーションの活性化を図るとともに、エンゲージメントの向上にもつながると期待している。

また同社は10月1日付で新社名「クラフティア(KRAFTIA)」に改称を予定。「信頼に応える技術実行力と、挑戦をやめない技術革新力でフロンティアを切り開いていきたい」との決意を名前に込めている。